

1-2 ごみの減量にむけて

ごみの減量や資源化は、私たちが日々生活していくうえで、避けて通ることができない取組みのひとつです。

燃やすごみの中には、食べ残しや未利用品などまだ食べられるのに廃棄される食品「食品ロス」が含まれており、日本では令和3年度時点で523万トンの食品ロスが発生していると言われていています。区では、食べきり推進運動を展開し、食品ロスの削減に取り組んできましたが、令和3年6月に江戸川区食品ロス削減推進計画を策定し、関係事業者等と連携して、更なる食品ロスの削減に取り組んでいます。

また、海洋プラスチックの問題やプラスチック焼却に伴い発生する温室効果ガスの問題などから、令和4年にプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が施行されました。区では事業者等と連携して、プラスチック資源の削減に取り組むとともに、製品プラスチックの行政回収について検討しています。

「環境の時代」と言われる今こそ、限りある地球資源を守り、恵み豊かな環境を次世代へ引き継ぐため、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄という従来の社会経済システムを見直し、新たな社会経済システムによる持続可能な社会の実現をめざして行動することが求められています。

第2次 Edogawa ごみダイエットプラン

「江戸川区一般廃棄物処理基本計画」

【将来像】

日々の暮らしの中で物を大切にす豊かな心が広がり、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、ともに力を合わせ「循環型社会の形成」に取り組む、SDGs 未来都市・江戸川

江戸川区では、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、SDGsに積極的に取り組んでいます。循環型社会の形成をめぐる社会情勢が変化する中、ともに生きるまちを目指す条例やSDGsの趣旨を踏まえて、第2次 Edogawa ごみダイエットプランを策定しました。



区民一人1日あたりの収集ごみの量を、令和2年度比10%減の460グラムまで削減することを目標とし、事業効率を向上させるためPDCAサイクルによる進行管理を導入しています。

柱となる3つの基本方針に沿って、「区民」「事業者」「区」が主体となって将来像を実現します。

(1) 「協働の推進」

共に学び、行動につながるシステムを構築し、区民・事業者・区の協働による循環型社会の形成に向けた取り組みを広げます。

環境学習・意識啓発の促進

区民・事業者・区による協働体制づくり



(2) 「ごみ減量の推進」

持続可能な生産消費形態を構築するため、リデュース>リユース>リサイクルの優先順位に基づく3Rの実践により、ごみ減量への取り組みを行います。

食品ロスの削減

プラスチックを含めた3Rの推進



(3) 「適正処理の推進」

誰もが安心して気持ちよく生活できる清潔で安全な都市を維持するため、ごみの適正処理を推進します。

環境負荷の少ない適正なごみ処理の推進

ごみ処理コスト削減と処理経費負担の適正化推進



SDGs 未来都市・江戸川区を目指して

共育・協働を基本に3つの考え方に沿って、地域特性を生かした取り組みを実践していくことで将来像を実現します。

(1) 協働の推進

ごみ問題解決のために区民、事業者、区が共に学び、行動する、“学ぶ(学習) 実践 交流 次の行動へ”というプロセスを組み込んだシステムの構築、プログラムの展開を図るとともに、ごみ問題の原因・影響などに対する正しい評価情報や対応策、さらには実施効果などについて多くの区民に理解してもらい、循環型社会の形成に向けた取り組みにつなげていきます。

(2) ごみ減量の推進

これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄というごみを大量に発生させてしまう社会経済システムを改め、環境に負荷の少ない循環型都市を目指すために、積極的にリデュース・リユース・リサイクル(3R)の取り組みを推進します。

(3) 適正処理の推進

区は、区民の生活環境を保全し公衆衛生を向上させるため、ごみの適正処理を行うことで誰もが気持ちよく安心して生活できる清潔で安全な都市を維持していきます。

また、近年多発している大規模災害や、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下においても、ごみの適正処理が行える体制を構築します。

減量目標(一人1日460グラム以下)

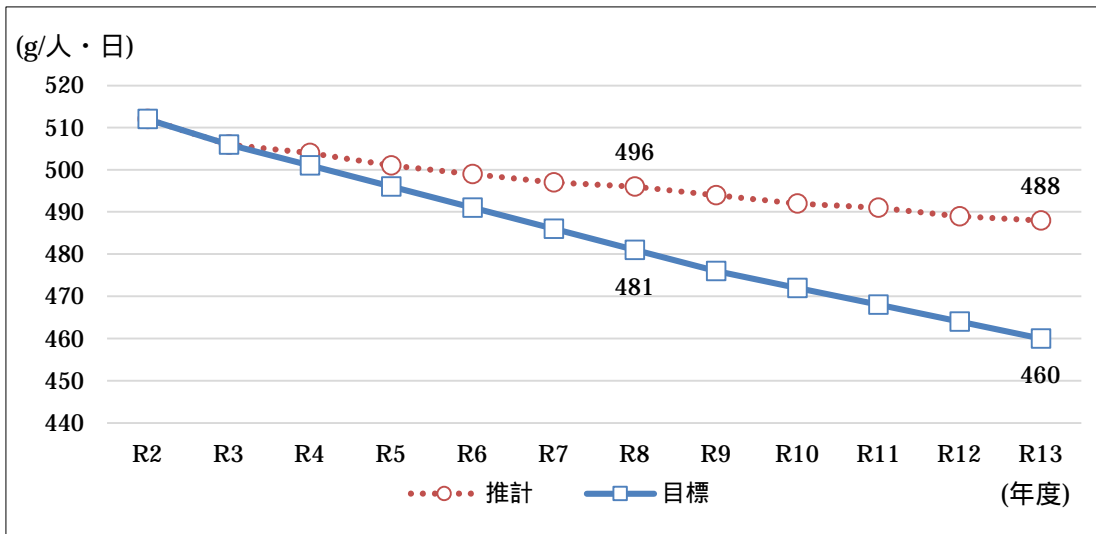
第1次 Edogawa ごみダイエットプランでは、平成12年度と比較して令和3年度までに20%ごみ量を削減することを目標として設定し、その目標は達成することができました。

一方で、令和元年度及び令和2年度はごみ量が増加したことなどから、更なるごみ減量の対策が求められています。

そこで、ごみ減量に対する取り組みをさらに推進することで、減量の傾向を継続させ、区民一人1日あたりの収集ごみ量を、令和13年度までに令和2年度比(512グラム)で10%削減し、460グラム以下とすることを目標としました。

ごみの減量を達成するためには、区民一人ひとりの実践が必要です。身近なところからごみを出さない工夫をしていきましょう。

推計値と目標値の比較（区民一人1日当たりの収集ごみ量）



目標達成に必要なとなるごみ減量はどのくらい？

令和2年度比で10%（52g）ごみを削減するためには、一人ひとりが毎日次のような取り組みを行う必要があります。

■使い捨てを減らす■

ペットボトル 350mm  約25g マイボトル利用	お弁当の 空き容器  約14g マイ容器利用	割りばし  約5g マイ箸利用	レジ袋2枚  約8g マイバッグ利用	➡	52g の削減
---	---	---	--	---	----------------

■しっかりリサイクルする■

牛乳パック  約30g	お弁当の 空き容器  約14g	食品トレイ 2枚  約8g	➡	52g の削減
--	---	---	---	----------------

過去のごみ減量の傾向が続くと達成が困難な目標です。区民、事業者、区が一体となってごみ減量の取り組みを加速させる必要があります。みんなでごみ減量に取り組みましょう！

区民一人ひとりができる行動

(1) 買い物のときにできること

マイバッグを利用してレジ袋を断ると約10g減量

紙製の手さげ袋を断ると1枚あたり約50g減量

量り売り商品を購入し、トレーを使用しないと1個あたり約20～

60g 減量

(2) 生活のなかでできること

ギュッとひと絞りで生ごみの約 10%の水分を減量

食品は買いすぎず、作りすぎず、残さない。おにぎり 1 個あたりの残飯を出さないことで約 100g 減量

洗剤など詰め替えができるものを使用することで、空ボトル 1 本あたり約 60g 減量

(3) ごみと資源を分別することでできること

新聞紙朝夕刊 1 日分で約 250g 減量

1 リットルのジュースの紙パック容器で約 30g 減量